50周年
感謝の気持ちを込めて

NE VISION

第50期　株主通信

2011年7月1日～2012年6月30日

株主のみなさまへ 1
決算ハイライト 3
部門別の概況 4
主要財務データ 5
プロジェクト紹介 8
株式情報 9
会社データ 10
株主メモ 11

大日本コンサルタント株式会社
NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO.,LTD.

株主のみなさまへ

代表取締役社長　川神　雅秀

平素より、株主の皆様には社業へのご理解・ご支援を賜り、心からお礼を申し上げます。

第50期株主通信をお届けするにあたり、当事業年度の決算概要、今後の経営方針等についてご報告を申し上げます。

当事業年度の決算概要のご報告

第50期は、平成23年度の公共事業関係予算が実質的に前年度比4%減となる中で、市場環境が第49期よりもさらに厳しくなるとの認識に立ち、「如何にして入りを図り（目標受注額の確保）、出を制す（外注費や経費等の削減）か」の課題に総力を挙げて取り組みました。その結果、受注については、震災復興関連業務と海外市場での業務受注が寄与し、前期比17.5億円増の112.9億円となりました。また、次期繰越し業務も54億円程を確保することができました。第50期に受注した業務のトピックスを紹介しますと、震災復興関連では、津波により被災した市街地の新たな街づくりに関わる業務（福島県相馬市、宮城県女川町、他）、南海トラフ巨大地震に対する津波等の防災対策業務（内一件は、業務成果が高く評価され、国土交通省国土技術政策総合研究所より優秀技術者表彰を授与）、民間の活力を積極的に導入した三陸沿岸道路の事業監理業務（国土交通省東北地方整備局発注）、さらに漁港・港湾関連の復興業務への参画等があります。また、海外業務では、フィリピンやエジプトにおいて、大規模な道路・橋梁の維持管理能力向上プロジェクト業務の受注に成功しました。

次に収益は、「生産効率の向上」をテーマに掲げ、業務の効率化、外注費の削減等に全力で取り組みました。また、二期連続の赤字決算を回避するため、期首より人件費や経費等の削減も実施しました。その結果、売上高は103.8億円（前期比10.9億円増）を確保し、売上総利益は28.2億円（前期比2.8億円増）、営業利益は3.1億円の黒字となりました。また、販管費は前期比1.2億円の減額となりました。当期純利益につきましては、特別損失で株式評価損と法人税率変更に伴う繰延税金資産の取崩が発生し、0.3億円となりました。尚、有利子負債は資金収支が改善し、長短借入金1.6億円を返済しました。

翌事業年度に向けて

平成24年度の国土交通省関連の公共事業予算は、震災復興事業や全国防災対策事業等を加えて、前年度比10%増(国費で5.5兆円)となりました。特に震災復興事業(10年間で23兆円規模を投入予定)と全国防災対策事業は、別枠の復興税や復興国債等の財源も加わることから、短中期的には東日本地域を中心に市場の上向きが期待できるものと考えています。一方、震災復興後の厳しい公共市場を考えると、当社は、この好機に、スピードを上げて防災事業分野と海外事業分野の拡大強化を図り、併せてコア事業分野の周辺領域拡大(港湾関連事業、民間危険施設耐震対策事業、発注者支援業務、他)に全力で取り組む必要があります。第51期の経営は、チャレンジ対象を前述した事業分野の育成強化、震災復興事業、さらに全国防災対策事業に的を定めて実施します。この趣旨に沿い、7月1日に東北支社の強化を柱とした人事異動を発令し、さらに、本社に復興・防災推進部を新たに設立しました。復興・防災推進部は、震災復興事業や全国防災対策事業の拡大に向けた主導的役割を担います。尚、第51期の業績予測は、受注目標は108億円以上を、収益目標は売上額107億円、営業利益3.6億円、純利益1.4億円以上とします。

さて、大日本コンサルタント株式会社は、平成25年1月23日に創立50周年を迎えます。当社を創設した先達は、会社の礎を創り社業の発展に多大な貢献をなされました。この偉業を引き継ぐ私達は、さらなる発展を目指し、経営健全化に向けた改革、事業拡大への様々な挑戦を着実に実行する使命を担っています。私達は、「社会の皆様に、最高のサービス、最高の成果を提供するぞ」という熱い思いと使命感を抱き、常に、独創自立を基本とし、攻めの姿勢で貪欲に可能性に挑戦してまいります。

最後になりましたが、当事業年度末の１株当たりの配当金につきましては、当事業年度の業績ならびに今後の事業展開などを勘案し、6円とさせていただきました。

今後とも株主の皆様のご期待に応えるべく努力してまいりますので、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

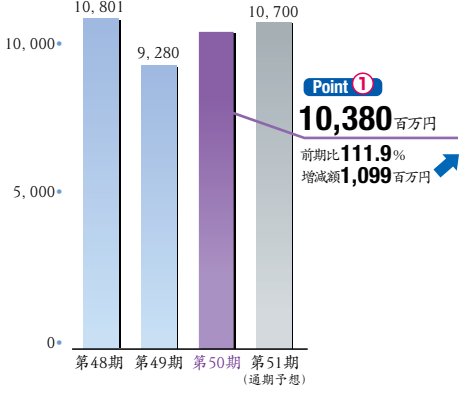
【北十間川水辺空間修景整備】(東京都)
当社は、東京スカイツリーの街区と一体となった水辺空間の整備を行いました。

決算ハイライト

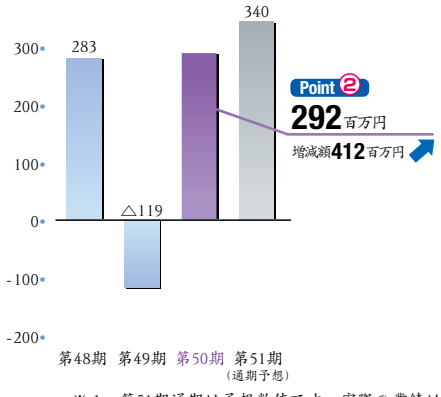
（単位：百万円）

Point① 震災復興関連業務の受注が増加し、売上高が2期ぶりに100億円台に回復
Point② 生産効率の改善及びコスト削減により、経常利益がV字回復
Point③ 当期純利益は黒字を達成し、期末配当は1株当たり6円

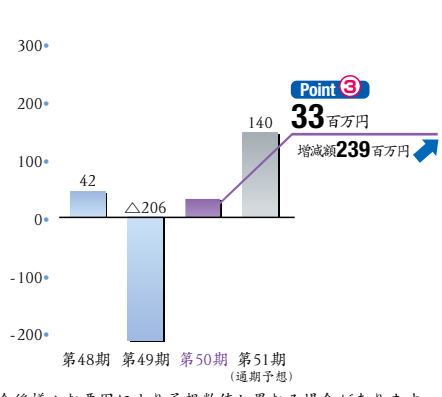
● 売上高



● 経常利益



● 当期純利益



※1．第51期通期は予想数値です。実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。
※2．記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

部門別の概況

（単位：百万円）

道路・橋梁

受注高	8,094	増減額 1,529 前期比 123.3%	受注高構成比 71.7%
売上高	7,449	増減額 1,056 前期比 116.5%	売上高構成比 71.8%

道路及び橋梁・地下構造物・トンネル・海洋構造物等、土木・建築系構造物全般に関する調査・計画・設計等を行っております。

当部門は、受注高が80億9千4百万円（前期比123.3%）、売上高は74億4千9百万円（同116.5%）となりました。主な受注業務として、国際協力機構(JICA)よりエジプト国橋梁維持管理能力向上プロジェクト、宮城県気仙沼大島における橋梁詳細設計業務、国土技術政策総合研究所より東日本大震災において道路施設に作用した津波外力に関する調査業務があげられます。

広域整備・調査

受注高	2,699	増減額 289 前期比 112.0%	受注高構成比 23.9%
売上高	2,351	増減額 121 前期比 105.5%	売上高構成比 22.7%

交通、都市・地域整備、公園・緑地、下水道等の都市施設、河川・砂防の他、広域地域整備に関する調査・計画・設計等ならびにこれらコンサルティング業務に係る地質・環境調査等全般について行っております。

当部門は、受注高が26億9千9百万円（前期比112.0%）、売上高は23億5千1百万円（同105.5%）となりました。主な受注業務として、福島県相馬市刈敷田地区における住宅団地造成測量調査及び実施設計業務、兵庫県香住谷川における砂防堰堤詳細設計業務、東日本大震災の被災状況に対応した市街地復興パターン詳細検討業務(相馬市、女川町)があげられます。

施工管理

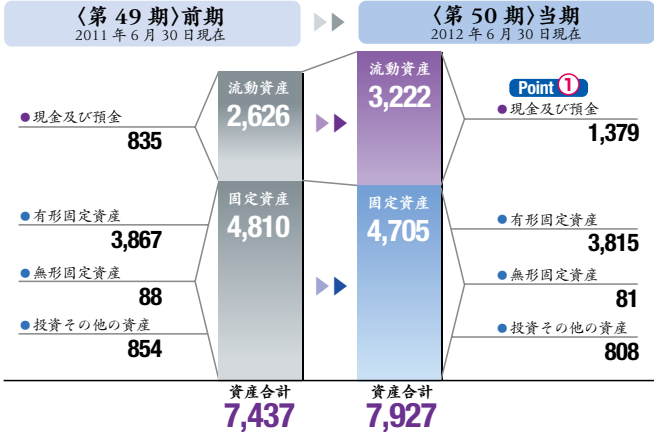
受注高	499	増減額 △59 前期比 89.3%	受注高構成比 4.4%
売上高	580	増減額 △78 前期比 88.1%	売上高構成比 5.5%

工事の実施に関する調査・計画・設計及び監理について行っております。

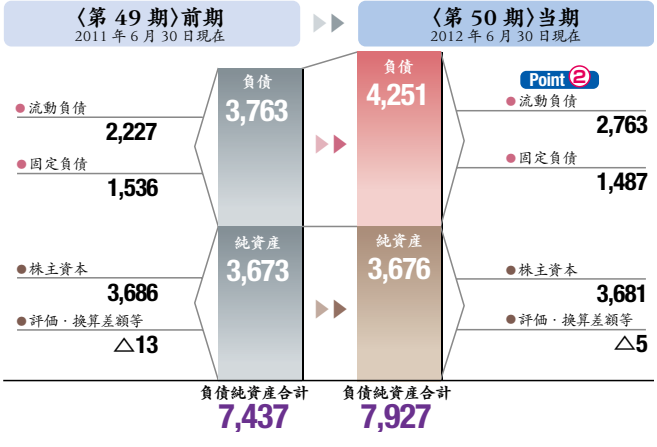
当部門は、受注高が4億9千9百万円（前期比89.3%）、売上高は5億8千万円（同88.1%）となりました。

貸借対照表の概要

Point ① 現金及び預金は、受注が堅調であったためキャッシュフローが改善
Point ② 流動負債は、次期繰越業務の増加により未成業務受入金が増加



（単位：百万円）



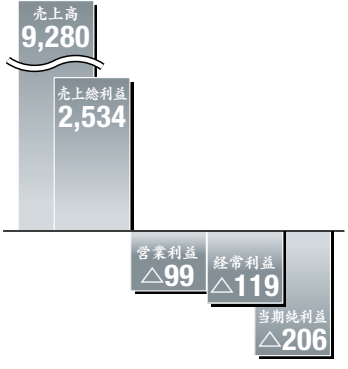
注 1．△印は、マイナスを示しております。
　 2．記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書の概要

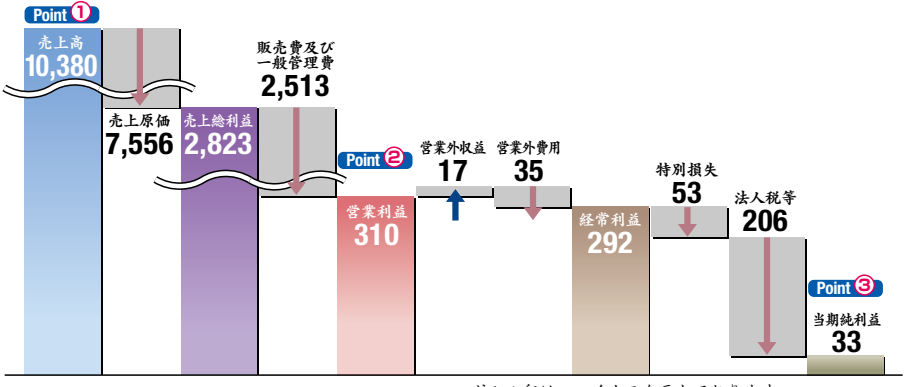
Point ① 売上高は、震災復興関連業務の受注が堅調に推移した結果、前期比111.9%増
Point ② 営業利益は、生産効率の改善及びコスト削減の結果、前期比4億1千万円の増加
Point ③ 当期純利益は、株式評価損及び法人税率変更の影響により3千3百万円。黒字を確保

（単位：百万円）

〈第 49 期〉前期
2010 年 7 月 1 日から 2011 年 6 月 30 日まで



〈第 50 期〉当期
2011 年 7 月 1 日から 2012 年 6 月 30 日まで



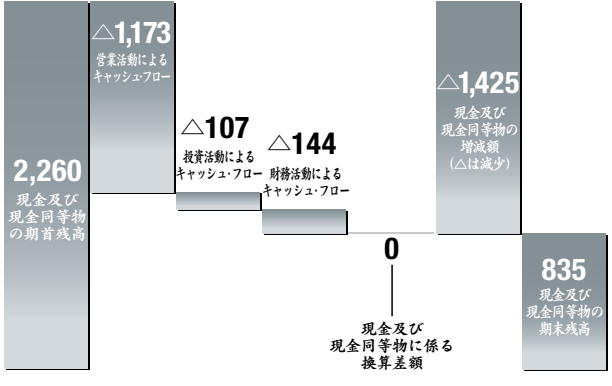
注1.△印は、マイナスを示しております。
2.記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

キャッシュ・フロー計算書の概要

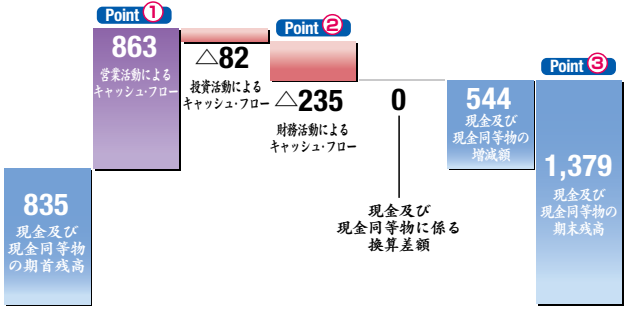
Point ① 営業活動CFは、堅調な受注及びコスト削減の結果、8億6千3百万円獲得
Point ② 財務活動CFは、短期及び長期借入金の返済の結果、2億3千5百万円使用
Point ③ 現金及び現金同等物の期末残高は、堅調な受注の結果、前期比5億4千4百万円増加

（単位：百万円）

〈第 49 期〉前期
2010 年 7 月 1 日から 2011 年 6 月 30 日まで



〈第 50 期〉当期
2011 年 7 月 1 日から 2012 年 6 月 30 日まで



注１．△印は、マイナスを示しております。
　２．記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

新湊大橋設計業務

待望の新湊大橋　平成24年9月23日に開通

新湊大橋は、伏木富山港新湊地区の港湾開口部を東西に結ぶ日本海側最大級の斜張橋です。主橋梁部の主要諸元は、斜張橋部の長さ600m、主径間360m、主塔の高さ127mで、支間長の長い中央径間を死荷重（主に自重）の軽い鋼桁、支間長の短い側径間を死荷重の重いPC箱桁とする複合斜張橋形式で、平成14年11月の着工から10年の歳月を必要とし ました。

新湊大橋の開通により、富山新港の開港から40年以上にわたって分断された港の東西地域がつながります。供用後は、コンテナ貨物を中心とする物流の円滑化及び効率化と、港湾利用者の利便性向上に大きな期待が寄せられています。当社は、国土交通省北陸地方整備局から設計業務を受注し橋梁設計に携わりまし た。

株式情報

（2012 年 6 月 30 日現在）

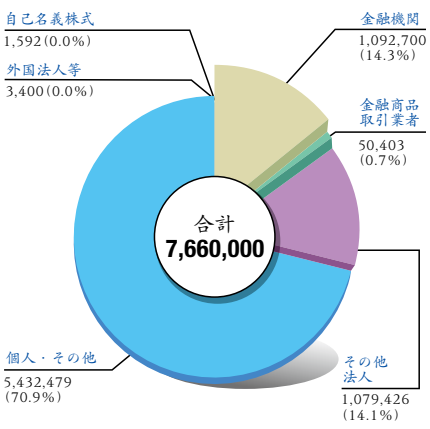
●株式の状況

発行可能株式総数	24,000,000 株
発行済株式の総数	7,660,000 株
株主数	1,552 名 （前期比 65 名増）

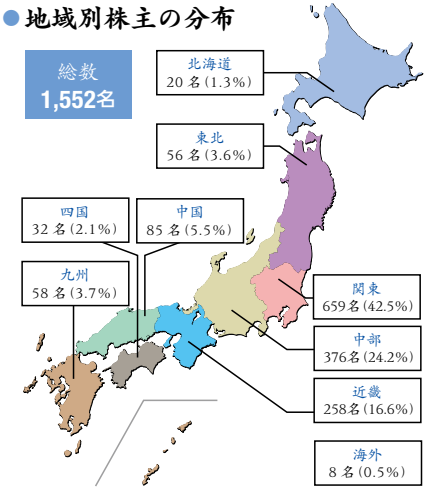
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大日本コンサルタント社員持株会	771	10.07
原田　始	626	8.18
大日本コンサルタント社友持株会	429	5.60
株式会社 北陸銀行	325	4.25
古河機械金属 株式会社	190	2.48
株式会社 三菱東京 UFJ 銀行	181	2.37
川田テクノシステム株式会社	172	2.25
富士前鋼業 株式会社	165	2.15
富士前商事 株式会社	146	1.91
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	140	1.83
三菱 UFJ 信託銀行 株式会社	140	1.83

●所有者別株式数の分布



●地域別株主の分布



会社データ

会社概要

（2012年6月30日現在）

社　　名	大日本コンサルタント株式会社 NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD.
設　　立	1963年(昭和38年)1月23日
資 本 金	13億9千9百万円
社　　員	社員総数　562名(男性534名　女性28名) 平均年齢　44.7歳 平均勤続年数　16.2年
子 会 社	Nippon Engineering-Vietnam Co., Ltd. ＮＥテクノ株式会社

役員一覧

（2012年9月21日現在）

代表取締役社長	川神　雅秀	常勤監査役	古田　寛志
専務取締役	高久　晃	監査役※	吉田　勝
常務取締役	藤田　隆	監査役※	多田　勝仁
常務取締役	土井　朗		
取締役	新井　伸博		
取締役	折原　久治		

※社外監査役

資格者一覧

（2012年6月30日現在）

技術士		266名	(92名)
建設部門	河川、砂防及び海岸・海洋	21名	(7名)
	道路	74名	(17名)
	都市及び地方計画	29名	(15名)
	土質及び基礎	14名	(7名)
	鋼構造及びコンクリート	84名	(30名)
	トンネル	3名	(2名)
	建設環境	20名	(7名)
	港湾及び空港	1名	
	鉄道	1名	(1名)
	施工計画、施工設備及び積算	3名	
環境部門	環境測定	1名	(1名)
	環境影響評価	1名	
上下水道部門	下水道	4名	(1名)
応用理学部門	地質	7名	(3名)
農業部門	農業土木	1名	(1名)
情報工学部門	情報システム・データ工学	1名	
	情報ネットワーク	1名	
	(　)内は総合技術監理部門取得者数		
博士号		11名	
RCCM		115名	
一級土木施工管理技士		260名	
測量士		74名	
一級建築士		7名	

株主メモ

株式に関する事項

事業年度	7月1日～翌年6月30日
定時株主総会	毎年9月
基準日	定時株主総会　6月30日 期末配当　6月30日
1単元の株式の数	100株
公告の方法	電子公告により行います
公告掲載URL	http://www.ne-con.co.jp/

（ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。）

上場証券取引所	東京証券取引所（市場第二部）
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話　0120-232-711（通話料無料）

当社お問い合わせ窓口

経営企画室IR担当
〒170-0003 東京都豊島区駒込三丁目23番1号
TEL 03-5394-7611（代）　E-mail info@ne-con.co.jp

ホームページリニューアル

平成24年9月にホームページをリニューアルいたしました。今後もご利用いただきやすいページづくりに努めてまいります。会社情報、事業紹介、株主・投資家情報などを公開しております。ぜひご利用ください。

URL:http://www.ne-con.co.jp/

VEGETABLE OIL INK